

2018 年 8 月 22 日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

SCOAP³ について

1. 参加意向調査と 2018 年の進捗状況

3 月中に「検討中」機関の最終的な意向を確認したあと、CERN に参加機関のリストを送付した。CERN からこれに基づき請求書が発行されており、NII が取りまとめて支払いをし、参加機関に対して請求書を送付する予定である。

(1) 概要

大学図書館等を対象として、SCOAP³ への参加意思の有無、参加する場合のアメリカ物理学会 (APS) 誌の拠出額を調査。

(2) 回答状況 (2018 年 2 月 28 日現在)

参加	62 機関
検討中	4 機関
不参加	63 機関

なお、フェーズ 2 (2017-2019) としては、以下のような参加状況になる。

- ・ 2017 年以前から参加、かつまた APS 分拠出機関 : 35
- ・ 2017 年以前から参加、かつまた APS 購読なし : 5
- ・ 2018 年から参加、かつまた APS 分拠出機関 : 27
- ・ フェーズ 2 全体参加機関 : 67

(3) 拠出期待額及び実際の拠出額

日本に拠出が期待されている金額等は以下のとおりである。

- ・ 日本に期待される拠出額 : 781,000 ユーロ
- ・ 2018 年日本拠出額 : 約 493,000 ユーロ (APS は米ドルをユーロに換算)
- ・ 不足額 : 約 288,000 ユーロ (約 3,763 万円)

2. 「SCOAP³ 参加の検討について (依頼)」の送付

前項の状況から、SCOAP³ 未参加機関に参加を促す文書を別紙のとおり 8 月中に送付予定。

3. Governing Council (総会) 委員について

Governing Council (総会) 委員は 5 月の会議にて安達淳副所長から山地教授 (国立情報学研究所) に交代した。年数回行われるテレビ会議等に参加する。

(案)

資料 3-2 (別紙)

平成30年8月 日

**大学長

** ** 殿

**

SCOAP³参加の検討について (依頼)

日頃からオープンアクセス推進に係る活動にご協力をいただき、ありがとうございます。
標題の SCOAP³ (Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics) は、物理学分野の論文を包括的にオープンアクセスにしようとする国際的なプロジェクトです。

現在、SCOAP³ に不参加である貴大学におかれましても、同封しました別紙等の資料を参考にご検討いただき、ぜひとも SCOAP³ にご参加いただけますようお願いいたします。

- ・別紙 SCOAP³ 参加のお願い
- ・日本物理学会誌掲載広告 (2017 年 9 月号)

【本件に関する問い合わせ先】

SCOAP³事務局

(大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所
学術基盤推進部 学術コンテンツ課 支援チーム)

E メール scoap3_office@nii.ac.jp

(案)

別紙

平成 30 年 8 月 日
SCOAP³事務局

SCOAP³参加のお願い

日頃は電子ジャーナルのオープンアクセス推進の活動にご協力をいただきまして、ありがとうございます。私どもは昨年、アメリカ物理学会の電子ジャーナルを購入している機関を対象に SCOAP³ への参加意向調査を実施しましたが、貴大学を含め 80 機関が「不参加」あるいは「検討中」の回答か、もしくは無回答の状況です。今回、SCOAP³ の意義について再度ご検討いただきたく、この説明資料を作成しました。

オープンアクセス推進活動の一つに全国の大学図書館が連携して行っている SCOAP³ (Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics) があります。これは、素粒子・高エネルギー物理学を中心とした物理学分野の論文のオープンアクセス化を目的にスイスの CERN (欧州原子核研究機構) が中心となって 2014 年から活動している国際的なプロジェクトです。只今、44 ヶ国、3,000 以上の大学や研究機関・研究助成機関、3 つの政府間機関が参加しており、その結果、世界中の高エネルギー物理学関係の論文、並びに素粒子関係の理論の論文約 2 万件 (4 年間の実績、該当総数の約 9 割) がオープンアクセス化され、インターネットで自由にアクセスできます。この中には日本物理学会のジャーナル Progress of Theoretical and Experimental Physics (PTEP) も含まれています。

SCOAP³ のビジネスモデルは、当該分野のジャーナル (エルゼビア社等 7 社のジャーナル 11 誌) に対して大学が支払っている「購読料」を、論文をオープンアクセスにするための「出版料」 (Article Processing Charge : APC) に振り替えるというものです。今までの購読料の支払い先を出版社ではなく SCOAP³ に一部替えるだけです。大学が新たに経費を用意することなく、ゴールド・オープンアクセス出版に切り替えられるのが特徴です。研究者は論文投稿料を支払う必要がなくなります。このように追加的支出なしで、読者と論文投稿者の両方の立場で研究者の負担が軽減していきます。

さて、SCOAP³ では各国から拠出金を集め一括して出版社に支払います。国別の負担額は、論文著者の所属機関の国別比率で算出します。米国 (20.1%)、ドイツ (9.4%)、中国 (7.7%) に続き、日本は 7.0% の論文を出版していますが、現在 SCOAP³ に参加する 67 機関ではそれに見合う金額を拠出できていません。

2018 年からアメリカ物理学会 (American Physical Society : APS) が SCOAP³ に加わりました。これにより、APS の Physical Review C、Physical Review D、Physical Review Letters やそれを含むパッケージを購入している日本のすべての機関では、契約額が前年より削減されています。例えば Physical Review D の素粒子・高エネルギー物理学分野の論文掲載率

(案)

は 64%ですので、定価の 64%が削減されました。今回、日本の APS 契約機関の減額分は年間約 4,750 万円に及ぶと推計しています。この削減された金額を SCOAP³ に振り替えることにより、日本も SCOAP³ の持続的な活動に寄与できますが、まだ 65%程しか集まっています。

このように、SCOAP³を支え、維持していくためには、当該ジャーナルの購読機関である大学や研究者のご協力が欠かせません。日本は当該分野における論文数が世界でも有数(第 4 位)であるにも関わらず、日本に求められている期待額(78 万ユーロ、約 1 億円)の約 62%しか支払っていません。毎年の拠出不足額は約 3,700 万円にもなります。雑誌を購読していたにも関わらず参加しない機関が多いためです。不足額は日本だけが突出して大きく、国際的なオープンアクセス推進活動の中で「フリーライダー(タダ乗り)」と見なされるという大変厳しい状況に陥っています。この不足分は、CERN や他国が肩代わりしており、日本のプレゼンス、そして科学外交上も懸念される状況です。

オープンアクセスは教育・研究成果の発信力強化のみならず、中長期的には学術情報流通にかかるトータルコストの節減につながることから世界中で様々な取り組みが行われています。SCOAP³の発展により他の分野への広がり期待でき、SCOAP³の存廃は特定分野だけの問題ではないと言えます。

また、SCOAP³は、出版社主導ではなく、研究者コミュニティと図書館コミュニティが協力して育ててきたという点で、稀なるプロジェクトです。現在、ドイツを中心に世界中の学術機関、研究助成機関等が注目している OA2020 (<https://oa2020.org/>) という学術雑誌の包括的なオープンアクセス化を目指す国際イニシアチブからも注目されており、SCOAP³を範としたプロジェクトが他の分野でも進められていくことが期待されています。

お問い合わせ等ありましたら、末尾に記しました事務局までご連絡ください。

貴大学にて、オープンアクセスや SCOAP³について物理学研究者および電子ジャーナルを扱う関係者の間でご検討いただき、ぜひとも APS 購読費の減額分を拠出いただけますよう、お願いいたします。

冒頭で申し上げました通り、この説明資料は私どもで昨年実施しました調査について、「不参加」あるいは「検討中」の回答か、もしくは無回答だった機関に送らせていただいております。もし貴機関において SCOAP³対象誌を購読されていない場合はご放念ください。

【本件に関する問い合わせ先】

SCOAP³事務局

(大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所
学術基盤推進部 学術コンテンツ課 支援チーム)

Web サイト <https://www.nii.ac.jp/sparc/scoap3/>

E メール scoap3_office@nii.ac.jp